

## 「冷凍食品業界における容器包装3R推進のための自主行動計画」

### 第7回フォローアップ調査結果

一般社団法人日本冷凍食品協会

#### <はじめに>

当協会は、2006年（平成18年）3月に『冷凍食品業界における容器包装3R推進のための自主行動計画』を策定し、2010年の最終年度に2004年度比で原単位あたり3%削減の目標であったが、5.8%削減を達成した。

さらに、2012年3月、新たな2015年度を目標年度とする「冷凍食品業界における容器包装3R推進のための第二次自主行動計画」を策定した。

3Rとは、リデュース(Reduce: 減量)、リユース(Reuse: 再利用)、リサイクル(Recycle: 再生利用)のことであるが、上記の第二次自主行動計画では、このうちプラスチック製容器包装のリデュースについて「2015年度までに2004年度実績比9%削減(原単位)」という数値目標を定めている。また、容器包装リサイクル法の対象が一般廃棄物として家庭から排出される容器包装であることから、調査対象は家庭用冷凍食品の容器包装に限定している。

また、この自主行動計画では、「取組みの結果については毎年度検証し、公表する」としていることから、第7回フォローアップ調査(2012年度実績)について家庭用冷凍食品メーカー9社を対象に実施した。

#### <第7回フォローアップ調査結果>

2012年度の家庭用冷凍食品容器包装のプラスチック使用量原単位(冷凍食品販売数量当たり)は、基準年である2004年度比で9.9%減少し、前年対比で2.6ポイント低下した。「2015年度までに原単位で9%削減」という数値目標を本年度達成した。

これは、冷凍食品メーカー各社では

- ◆プラスチックトレイの廃止や薄肉化
- ◆パッケージのダウンサイジング

など、プラスチック使用量削減に取り組んだ結果と考えられる。

また、これらの取り組みのほか、従来からプラスチックトレイを使用していない米飯類や麺類などの販売量が伸びたこと等も低下した要因であると考えられる。

#### 【問い合わせ先】

一般社団法人日本冷凍食品協会 企画調査課  
梶田

TEL 03-3541-3003

E-mail kajita@reishokukyo.or.jp

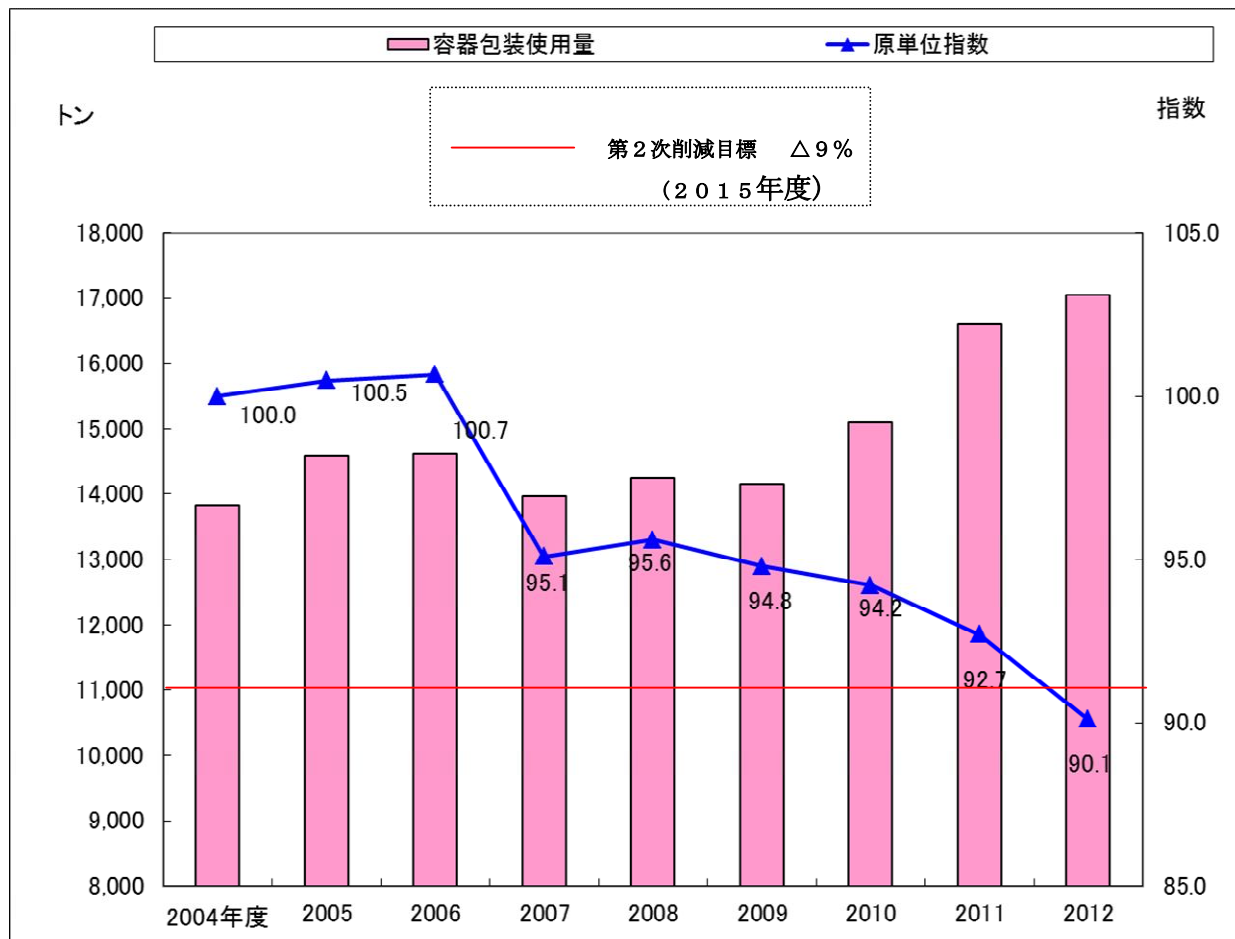
<第7回フォローアップ調査結果>

調査対象：家庭用冷凍食品を製造・販売する大手9社  
 対象商品：プラスチック製容器包装を使用した家庭用冷凍食品  
 指数：2004年度を100とする  
 目標：2015年度までに2004年度実績比9%削減（原単位）


※原単位：冷凍食品販売数量当たりのプラスチック容器包装使用量

	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
容器包装 使用量 (トン)	13,824	14,592	14,611	13,969	14,249	14,065	15,093	16,605	17,055
同指数	100.0	105.6	105.7	101.0	103.1	101.7	109.2	120.1	123.4
製品販売 量指数	100.0	105.1	105.0	106.3	107.9	107.4	115.9	129.6	136.9
原単位	100.0	100.5	100.7	95.1	95.6	94.8	94.2	92.7	90.1

(注) 調査対象については、2004～2010年度では8社、2011年度から9社である。



<3R 推進の主な事例>

会社名	テーブルマーク株式会社	商品名	冷凍ミルクパン
説明	容器包装について形状を改良し、容器包装材使用料を約45%削減した。		
効果	容積約50%縮小、包材約45%削減		
改良前		改良後	
			

会社名	日本水産株式会社	商品名	炭火焼 さけの塩焼き
説明	トレーの減量化		
効果	トレーの厚みを薄くすることで、1枚あたり16.7%の減量化を行った。		
			

会社名	株式会社マルハニチロ食品	商品名	えびと野菜の塩炒麺
説明	トレー及びピロー包装のダウンサイズを実施		
効果	1個当たり2.6gの削減		
